生涯学習体系における継続教育について

Special Edition; Continuing Education for Engineers
in a Standpoint of Lifelong Studying

編集委員長 中 村 元 和

Managing Editor Journal of JSEE

Motokazu NAKAMURA

生涯学習については、新聞、TV等に最近多く表れる言葉です。戦前には、大学を卒業すれば、一応最高学府で勉強したから、その後は特殊の職業を除き、余り勉強しなくてもよいと一般に考えられていました。またそれで社会生活を送る上で困ることも少なかったと思います。ところが現在はいかがでしょうか？

科学技術の発展等により、コンピュータ、FA、OA機器等が出現して、好むと好まざるにかかわらず、新しいことを勉強したり、学習せざるを得ない状況に追い込まれてきました。知らず知らずのうちに社会の変化にうまく対応していたと言えましょう。

更に、各人が健康に恵まれて長命となったため、定年が60～65才に延長され、平均寿命も80才近くなりました。そこで定年後の第二の人生をいかに人間らしく、楽しく、健康に暮らすかが重大な問題となり、そのためには、如何したらよいかを考えることが必要となりました。老令となってからいかに暮らすかを若い時代から考えて、なんらかの趣味を持っていれば問題はありませんが、その準備をしなかった者は年令に適した趣味を学習することも大切であります。このように生涯にわたって自発的になんらかの学習をするのが

生涯学習で、これを助ける教育機関等があれば有益と思います。

継続教育は、学校（大学または高専）卒業後に入社した企業内で行う教育を指すものと一般に考えられています。ここでは広く解釈して、学校卒業後に行われる種々の教育という意味で考えることとします。新入社員に、企業に適した専門の教育を行うことは極めて大切ですから、各企業は企業内の教育を重視しています。社内の講習会の開催、大学院学生として入学、聴講生等はこの例といえましょう。このほかに、各人が自己の意思に従って企業とは無関係の教育を受ける場合があります。例えば放送大学の受講、通信教育、夜間大学等のように、日常の仕事を離れた趣味とか修養とか、あるいは将来の発展の準備等のため受ける教育もありましょう。

今後、各人が自己の意思に基づく学習を助けるなんらかの教育機関、教育設備等の存在が好都合です。これには現存するものの利用、あるいは将来こういうものがあったら良いと言う要望もあると思います。これは生涯学習の体系のうちで今後重要な部を占める教育体系だと思います。このような考え方で、御意見の発表されんことを期待しています。